

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 2 回薬学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 24 年 7 月 19 日（木）16：00～18：00
場所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者：松山委員長、黒澤副委員長、大嶋委員、大谷委員、松野委員（ネット参加）
（事務局 井端、森下、平田）

III. 検討事項

今回は、薬学教育における教育改善モデルの実現に求められる教育力と、教育力を実現するためのFD活動、大学の課題について以下のとおり検討し、まとめた。

1. 教育改善モデル実現に求められる教育力

薬学教育における教育改善モデルの「2. 授業デザイン」「2.1 授業のねらい」に「医療現場では薬剤師も医師、看護師等とともに最適の薬物治療を行うことが必要」と掲げたように、薬学教育においては他職種連携において活躍できる薬剤師の育成が重要課題であることを踏まえて、それを実現するために必要な教育力について、モデルの内容を確認しながら以下の通り検討し、まとめた。

- ① 改善モデル「2.2 授業の仕組み」の「教員間の連携のためにポータルサイトを構築し、教員間で学習を支援する体制を実現する」、また、改善モデル「2.4 授業に ICT を活用した学習内容・方法」の「②学生に不足している薬学の基礎・専門知識の理解を e ラーニングで学習させる」ためには、教育に ICT を効果的に導入できる能力や他教員との連携に ICT を活用できる能力が求められる。
- ② 改善モデル「2.3 授業に ICT を活用したシナリオ」で「① 学習ポートフォリオを用いて薬学の基礎・専門知識の到達度を確認させ、不足する知識を e ラーニングで学習させる」ためには、学習ポートフォリオを活用して学習上の問題点を抽出し、学生に振り返りをさせることができる能力が必要となる。
- ③ 改善モデル「2.3 授業に ICT を活用したシナリオ」で「②医・薬・看護・栄養学等の学生と合同で対面やネットを通じて、患者及びその家族から病気に対する思いを聞き、心理を理解させる」「③ 合同で対面やネットで現在の薬物治療における問題点をグループで議論させる」「④合同で問題点を解決するための課題を提示し、グループで解決策を議論し学習成果を発表させる」「⑤合同でグループの議論の過程をポータルサイトに掲載し、グループ間の相互評価を通じて多様な視点から学ばせる」などを実現するためには、医療における薬剤師の役割を認識させるような個人学習やグループ学習の指導を行い、学習をさらに発展させることができる能力が必要となる。
- ④ 改善モデル「2.3 授業に ICT を活用したシナリオ」で「⑥学習成果を公開し、医療関連の他分野の教員や社会人からの意見を取り入れて振り返り学習を行わせる」ためには、他職種の意見も取り入れた多角的な視点から学習の到達度を評価し、学生一人ひとりの到達度に合わせた適切な指導ができることが求められる。
- ⑤ 改善モデル「2. 授業デザイン」「2.1 授業のねらい」に掲げた「職種間連携による合理的な医療を推進する力を身に付けさせるため、教員間で連携して、医学、薬学、看護学、栄養学等の学生に合同教育を行い、職種間連携（チーム医療）の中で、それぞれが果たすべき役割を理解させること」を実現するためには、医療における薬剤師の役割を理解し、他職種の教員と連携した授業をデザインして実施できる能力が必要である。

<教育改善モデル実現に求められる教育力>

- ① ICT を活用した教育の特性を理解し、学生のための e ラーニングや教員連携に ICT を活用できること。
- ② 学習成果のポートフォリオから、学生一人ひとりの学習上の問題点を抽出してフィードバックできること。
- ③ 医療における薬剤師の役割を念頭においた自主学習やグループ学習を発展させるコーチングができること。
- ④ 他職種の意見を取り入れながら、学習到達度を適切に評価し、それに合わせた指導ができること。
- ⑤ 薬学の特徴を理解した上で、他職種の教員と連携して授業を組み立て、薬剤師として果たすべき

役割を認識させられること。

2. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

1. で掲げた教育力の実現には、他職種の担当教員間での評価や問題共有が重要なポイントとなる。また、このためには有効なICT活用が必要となることから、FD活動と大学としての課題については以下のようにまとめた。

(1) FD活動

- ① 自主学習やグループ学習などの指導法について、ワークショップを組織的に行う必要がある。
- ② 他職種の担当教員間で意見交換を徹底し、ワークショップを通じて評価方法や問題点の共有を図る必要がある。
- ③ FD会議を定期的で開催し、ICTを活用した教育方法改善を組織的に実行していく必要がある。

(2) 大学としての課題

- ① 学務系職員、ICT技術系職員の教育支援能力の開発（SD）を組織的に行う必要がある。
- ② 学部間・大学間連携や他職種との連携に大学として取り組み、制度の整備および財政的な支援を行う必要がある。
- ③ 教材コンテンツ、ネットワークを介した評価や意見交換の結果などをアーカイブする必要がある。

3. 今後の検討スケジュール

今回は、8月30日（木）14:00より開催することにした。次回では、昨年度まとめた薬学教員の教育改善モデルにおいて、薬学教育モデル・コア・カリキュラム「(I) 実務実習事前学習」の「卒業後、医療、健康保険事業に参画できる能力」を獲得する教育を5年先の実現モデルとして提案した背景について、文章をA4版半分程度で作成する必要があること、また、現在の改善モデルはアンケートに利用できるよう簡潔にまとめているため、具体例、用語解説あるいは図等を挿入し、A4版3枚程度にまとめることを確認した。モデルへの追加は、口頭試験についても盛り込むことにし、紙媒体では不可能なことをネット上で実現する仕組み、そのためのコンソーシアムづくり、複数のジャンルから教員が出題し、どのような構想で行うのかなどを追加することにした。